

**私たち「フォーラム・子どもたちの未来のために」は、
政府が今国会での成立を目指している「テロ等組織犯罪準備罪」(「共謀罪」)に
強く反対します。**

●特定秘密保護法の制定以来、私たちは戦後日本が大切にしてきた「自由」「平和」「民主主義」という価値観が大きく揺らいでいくことに深刻な危惧を抱いてきました。

私たちは、皆、子どもの本の創作、翻訳、研究、編集、出版に携わる者たちです。その活動のためには、思想・信条の自由、表現の自由、いわゆる個人の内面の自由が保障されていることが、もっとも大切だと考えるからです。

●しかしながら、この「テロ等組織犯罪準備罪」は、他人を害する「実行行為」や「結果」がなくとも、準備や相談の段階から処罰が可能となるものであり、私たちの大事な基本的人権が根底から脅かされるものです。

●市民運動まで抑圧するものとの批判を受け、過去3回廃案になったこともあって、政府は今回、オリンピックの名のもとに、テロ対策のためのもの、「一般人」を対象とするものではないと主張しています。しかし、「一般人」であるかないかを判断するのは捜査機関。その線引きはきわめて曖昧です。私たちのごく普通の会議や打ち合わせまでもが、捜査機関の恣意的な判断で罪に問われかねないのです。

そして、なにより、事前の準備や相談を立証するためには日常的な監視が必要となるのは明白であり、それは私たちが理想とする自由で民主的な社会とはかけ離れたものといわざるをえません。

●私たちは、これまで、国の未来を担う子どもたちに、なによりも「平和で民主的な社会」「自由闊達に意見をいいあえる社会」を残したいと考えてきました。

いま、またこの「テロ等組織犯罪準備罪」の成立を許せば、次代の子どもたちに、息苦しい「監視社会」という、取り返しのつかない禍根を残すこととなります。

●子どもたちのよりよい未来のためにも、私たちは「テロ等組織犯罪準備罪」の成立を許すわけにはいきません。

2017年3月6日

「フォーラム・子どもたちの未来のために」実行委員会

絵本学会／絵本作家・画家の会／童話著作者の会／日本児童図書評議会（JBBY）

日本児童図書出版協会／日本児童文学者協会／日本ペンクラブ「子どもの本」委員会